

取組の視点

生徒

- 学習意欲を高め、自律的な学びにつなげる
- 自己肯定感の高まりを自主的、自律的な行動につなげる
- 協同の価値を様々な場面で見出す

教職員

- 生徒の能力を過小評価しない
- 原点に戻る（ねらいの意識化・明確化）
- 優先順位、スクラップ&ビルドを意識

本年度の目指す生徒の姿

- 一歩踏み出した自分を描いて、チャレンジする生徒
- 自分の能力に気づいて、自主的、自律的な学びに価値を見出す生徒
- 協同する価値を見出す生徒

努力点	学校自己評価				学校関係者評価
	本年度の具体的方策	評価指標	評価結果	次年度以降への改善策	
学びのある授業	学ぶことの意味が実感できる授業作りを行い、生徒の自律的な学びを深める工夫をする。	生徒の授業アンケートから、授業を通して新たな知識や考え(技能・技術)を獲得し、自律的な学びにつなげたと答えた生徒が90%以上A, 80%以上(B), 80未満C 単位修得率が、前年比2%以上向上A, 2%未満向上(B), 低下したC	B	・授業改善による自律的な学びを推進する。 ・開発した授業アンケート、授業観察シートの活用を図る。	○前年度数値よりは若干低下しているものの生徒・保護者のアンケートで授業改善の努力は伝わっていて概ね良好と思われる。
居がいのある学校生活	学校行事において、生徒の活動場を増やし、自己肯定感を醸成する。 健康な生活が送れるように、保健便り等を通して保健指導を行い、生徒の意識高揚を図る。	アンケートによる特活的行事への満足度が前年比5%以上向上(A), 5%未満B, 低下したC 生徒アンケートから、健康に留意したと答えた生徒が70%以上A, 60%以上(B), 60%未満C	B	・行事への参加を促す呼びかけを行い、主体的に取り組ませるための工夫をする。 ・清掃活動の充実を図る。	○特別活動に積極的に参加していると答えた生徒が前年度より増加している。保護者も生徒指導や学校行事について、肯定する割合が高い。
進路や生き方につながる履修計画	校外模試の活用を通して、希望生徒個々の学力を把握し、進学実現を図る。 就職を希望する卒業予定生徒の進路実現を図る。 各生徒に応じた履修指導の充実を図る。	進学希望者の進学先決定率が、85%以上A, 65%以上(B), 65%未満C 就職希望者の内定率が、80%以上A, 60%以上(B), 60%未満C 履修指導の満足度アンケートから、満足度が80%以上A, 70%以上(B), 70%未満C	B	・四年制大学・看護系を希望する生徒へのガイダンスを行う。 ・総合的な学習の時間「マイフューチャー」の改善充実を図る。 ・希望教科の偏りを避けるため、履修指導の特に事前指導を工夫する。	○先生方が様々な進路相談に真剣に取り組んでいる様子や教育課程に様々な体験活動を位置づけ生徒の意識化を図っている様子が窺える。
困難な状況の生徒への支援	面談や調査・検査の結果を活用し生徒の傾向やニーズに基づいた対応を実践する。 生徒や保護者が抱える課題について、校内でのケース会議の開催等、組織的な援助体制の構築を図る。	生徒アンケートで、相談や一人ひとりに対応した指導についての評価が昨年を上回るA, 昨年同様(B), 下回るC 困難な状況の生徒の課題に対して、組織的な援助ができたA, ある程度援助ができた(B), 援助ができなかったC	B	・幅広い需要に対応できる教育相談体制を確立する。 ・職員研修やSCによるコンサルテーション等の充実を図る。	○教育相談体制が整い、親身になって相談に応じている。
開かれた学校、外部資源の活用	学校ホームページの充実を図る。	アクセス数が一月1万回以上(A), 6千回以上B, 6千回未満C	A	・アクセス数は大幅に増加しており、今後はHPの記事の発信者を増やす工夫をする。	○閲覧人数は非常に増加しており、情報発信はうまくいっている。
安全安心な学習環境の確保	いじめ防止に対して、組織的に対応する。 校内外の巡回指導や日頃の生徒観察、声かけを実施し、危険防止、問題行動の未然防止を目指す。	安心、安全サポート調査等を活用して対人トラブルに早期に対応できた(A), おおむねできたB, 対応が遅れたC 巡回や声かけにより、成果が上がったA, 巡回等は計画的にできた(B), 不十分だったC	B	・いじめに関しては表面上見えにくいので、全職員で常に生徒の様子に気を配る。 ・ラウンジの使用法の改善策を講じるとともに、効果的な巡回指導を実施する。	○生徒・保護者の8割以上が肯定的な回答であるが、1件でもおこることは許されないという姿勢は大切である。 ○未然防止や早期解決への取組は、今後も継続していく必要がある。

